

# 「弥生」終焉の謎に挑む

妻木晩田遺跡・仙谷8号墓調査

〈尾かおり〉

「石棺だ」。2014年に行った国史跡妻木晩田遺跡（鳥取県大山町・米子市）の発掘調査で、仙谷8号墓の埋葬施設を開けたとき、私は思わず声に出して呟っていた。妻木晩田遺跡のある大山北麓では、弥生時代の墳丘墓は木棺を用いるのが伝統的な中、仙谷8号墓では石棺に遺体を埋葬していたからである。

3世紀後半という時代は集落の終焉期にあたる。仙谷8号墓に副葬品はなかったが、妻木晩田遺跡では初めて、墳丘墓に埋葬された人骨の一部が見つかった。幸運にも、終焉期の集落を率

統を引き継いでいる。墳丘に貼石は施されていないが、北側の区画溝が墓盤層の凝灰角礫岩層を深く掘り抜いているため、墳丘前面に礫面が露出し、迫力ある正面観が造り出されている。埋葬施設にはこれまでになかった石棺が新たに採用されており、重さ120kgを超える蓋石などの大型の石材は、遺跡の外から運

群（紀元1世紀後半ごろ）、仙谷墳丘墓群（同2世紀ごろ）、松尾頭墳丘墓群（同3世紀前半ごろ）の順に移動することが分かっていた。最終段階にあたる紀元3世紀後半に墳丘墓は築造されていないと考えられてきたので、この時期の墳丘墓が発見されたのは大きな成果と言える。

## 古墳時代的な特徴導入

3世紀後半の墳丘墓 石棺を新たに採用

その後も調査を続け、仙谷8号墓は3世紀後半ごろに築造された墳丘墓であることが明らかになった。山陰を代表する弥生の大集落・妻木晩田遺跡において、

いた首長の骨が発見されたのである。骨は額部分のみであり分析で性別は断定できなかったが、観察結果では、やや男性的な特徴が認められた。

び込まれたものである。仙谷8号墓の築造には相当な労働力が注ぎ込まれており、被葬者が大きな権力を持った人物であったことは間違いないだろう。

妻木晩田遺跡が終焉に向かう紀元3世紀は、邪馬台国に卑弥呼が君臨し、国家形成を目指して弥生時代から古墳時代へ全国規模で社会が大きく変化した時代であった。この時期の墳丘墓である仙谷8号墓には、弥

集落終焉期の首長が埋葬された仙谷8号墓は、妻木晩田遺跡最大の方形墳丘墓で、大山北麓の弥生人の伝

前1世紀から紀元3世紀にかけて栄えた妻木晩田遺跡では、村の有力者たちを埋

も古墳時代的な特徴が導入



弥生時代終焉期の首長の骨が見つかった妻木晩田遺跡の仙谷8号墓＝鳥取県大山町

されており、山陰の弥生集落にも新しい時代の波が押し寄せていたことを感じさせる。山陰地方において弥生時代はどのように終わり、次

跡公園文化財主事）

むきばんだ史跡公園は、4月29日～5月5日、さまざまな日替わりイベントによる「GWは、むきばんだ日